

報告：グアム大学夏期語学研修

高 階 悟

序. 「英語教育改善研究委員会」とグアム大学夏期語学研修参加者募集・選考

平成22年度に設置された「英語教育改善研究委員会」(委員長：総合科学教育研究センター長高橋秀晴)の英語教育に関する議論の中から海外語学研修が話題になった。学生が日本を離れて外国で研修することは、英語学習の意欲を高めるだけでなく、異文化を体験することでグローバルな視点で物事を考える力を身につける契機にもなる。語学研修や留学を通じて他国の人々と交わり、異文化を体験し、日本の文化を語ることは国際交流という観点からも意義深いものがある。

平成22年10月に生物資源科学部1年生を対象に「夏期語学研修アンケート」調査を実施した。アンケートの結果、半数近い学生(49%)が英語圏での夏期語学研修に関心を抱いていた。しかし、実際に海外語学研修に参加するにあたり最も考慮することは、経費であった。自由記述の部分に、海外語学研修には関心があるが「お金がない」と書いている学生、10万円くらいの費用で行きたいと記述している学生がいた。学生のアンケート結果を踏まえて「英語教育改善研究委員会」で議論の結果、語学研修を即時対応課題の一つとして検討することに決まった。平成23年度実施に向けて、国際交流委員のユーセフィアン(Shohabeddin Youssefian)准教授と相談をし、具体的な研修地の絞り込みにかかった。学生の経費の負担が少ない距離的に近い研修地としてグアム大学(University of Guam, 1952～, 学生数3,000名)が候補にあがった。が、ユーセフィアン先生は今までグアムを訪問したことがなく、私とユーセフィアン先生は平成23年1月26日から3泊4日で語学研修の下見にグアムへ行った。グアム滞在中は、グアム大学関係者や滞在予定のホテルの経営者に会い、さらにユーセフィアン先生はグアムで、グアム大学で知人に会い、グアム大学での語学研修の可能性が高くなった。同時に、大学側へは、学生の往復の航空費用の援助を申し出た。

平成23年4月、新学期が始まると同時に秋田キャンパスと本荘キャンパスにおいて学生への「グアム大学夏期語学研修」の参加者16名の募集を開始した。秋田キャンパスは、私と総合科学教育研究センターの高橋向子が窓口になり、本荘キャンパスは岡崎弘信准教授と浅田暁が窓口になり、学生に対応した。5月16日の申し込み締め切りまでの参加申し込み者は、秋田キャンパスは17名(1年生1名、2年生10名、3年生3名、4年生2名、院生1名)で本荘キャンパスは11名(2年生3名、3年生6名、院生2名)の合計27名であった。私とユーセフィアン先生、岡崎先生と相談をし、英語力(英検とTOEICの点数)と学科を考慮に入れて16名(秋田10名、本荘6名)に決定し、5月18日に本人に連絡をした。7月2日(土)午後1時秋田キャンパスで最初の説明会を実施し、学生は研修費用の残金を支払った。参加者全員初めて顔を合わせ、お互いに自己紹介をした。私はグアム大学夏期語学研修の実施に至るまでの経過とその目的を明らかにし、ユーセフィアン先生は、日程と宿泊先レオパレスについて説明をした。2回目の説明会は、8月12日午後5時秋田キャンパスで実施し、大学への誓約書を回収した。私は8月28日の成田空港での集合時間と集合場所を連絡し、持ち物等について説

明した。学生チームの金子久美リーダーも参加し、学生の安全のために適切なアドバイスをしてくれた。8月12日の説明会の時間を勘違いし、遅れて来た学生がいたが、参加予定者16名全員が揃った。しかしながら、5月16日から8月12日までに3名（5月18日1名、5月19日1名、6月27日1名）の辞退者がいた。

I. アメリカ（グアム）へ入国

出発の前日の8月27日昼頃に4年生の学生から就職活動の関係で参加の辞退を申し出てきた。最終説明会の時、学生は今回の研修に関して大学へ誓約書を提出した。誓約書には「申込書類提出、申込金支払完了後は本学が正当と認める以外辞退できない」とあるが、ユーセフィアン先生と相談の上、午後3時過ぎに学生の辞退の申し出を認め、旅行業者 HIS に連絡をした。

8月28日は、成田空港集合時間12時までに学生15名（男性8名、女性7名）と引率教員2名（ユーセフィアン先生と私）の全員が集まった。HIS スタッフのアドバイスに従い、出国はスムーズに進んだ。参加者は、コンチネンタル航空007便に乗った。機内でアメリカ入国時に必要な書類 I-94、I-736と関税申告者に記入し、グアムへの入国審査を無事通過した。多少の記入漏れ等で時間がかかった学生もいたが、問題にはならなかった。私が入国審査を通過するのに時間がかかり学生が心配していた。中年の入国審査官は、私に「日本で英語を教える仕事したいが、簡単に仕事は見つかりますか。どこで教えることができますか」などを質問し、その応答に時間がかかってしまった。この体験は、グアムと日本の関係の一端を象徴していた。午後8時頃に暑いグアムの宿泊地レオパレスリゾートに到着した。

グアム大学夏期語学研修の2週間は、実に内容的に豊富で多様性に富んでいた。語学研修のメインは、グアム大学の PIP (Professional & International Programs) 部門の EAP (English Adventure Program) の研修である。その研修内容に関してこちらの要望を取り入れて生物学系、エンジニア系、グアムの歴史・文化など10講座があった。また、アメリカの大学の授業状況を体験するために4つの講義を聴講した。時には、15名の日本人がクラスに入ったために、日本の文化・伝統・宗教などについての質疑応答の授業に変わった講義もあった。グアム大学の学生、また秋田県立大学の学生にとっても有意義な時間であった。但し、一般的に秋田県立大学の学生は、グアム大学の講義を聞いて、議論に参加するのは難しく、途中で研修計画の方針を変えた。グアム大学の講義の聴講よりも学生の発言の機会が多い第二言語として英語を学ぶ (ESL) 授業を取り入れ、4回の ESL の授業を受けることができた。ESL の授業では、語学研修に来ていた岡山大学の学生と一緒に授業を受け、お互いに刺激なったようである。異文化交流活動として、学生は EAP が計画したショッピングモールの調査 (Micronesia Mall Assignment) とチャモロビレッジでのインタビュー (Chamorro Village Survey) を実施した。秋田県立大学が企画したグアム大学の学生へのインタビュー調査 (University of Guam Survey) も実施した。それらの体験を踏まえて、学生はグアム大学で英語でのプレゼンテーションをし、帰国後、グアムに関する英文のエッセイも提出した。

以下は、グアムでの13日間の語学研修・聴講と異文化交流体験の足跡である。

II. グアム大学での EAP 語学研修開始

8月29日(月)は、11時までにグアム大学に行く。PIP のコーディネーターの Mr. Russell と Mr. Larry, Mr. Carlos がクッキー、果物、ケーキ、ジュースで私たちを歓迎してくれた。学生は、12時30分より13時50分まで Dr. Roseanne Jones の経済の講義を聴講した。午後2時より Prof. Tammy Jo Anderson Taft の最初の研修が始まった。Prof. Tammy は、環境保護に従事する研究者として、グアムのサンゴ礁や絶滅危惧種のココバード (Koko bird, 正式名 Guam Rail) などに

ついて熱く語ってくれたが、学生は英語のスピードについてゆくのには苦労しているようであった。この日の夜は、学生の提案から全員で午後8時頃よりレオパレス内のボーリング場でボーリングをして参加者同士の交流を深めた。

8月30日(火)は、8時30分にホテルを出てグアム大学へ向かった。午前中は、Dr. Ann Hattori のグアム文化についての研修で、グアムのチャモロ民族の歴史・文化・言語等について学ぶ。Dr. Ann Hattori の父親は日本人で母親がチャモロ人であり、母系社会のチャモロ文化を語る最適の人物であった。チャモロ民族は、アイヌ民族、オーストラリアのアボリジニ、南アメリカのインカ民族のように文字を持たなかったことを知った。そのため、チャモロ民族の歴史は、自分たちの言語でないスペイン語や英語で記録されていた。Dr. Ann Hattori はチャモロ民族が自分たちの言語で語る歴史とヨーロッパの支配者の語る歴史の相違を明らかにしてくれた。チャモロ民族が居住していたグアムは、航海者マゼラン (Ferdinand Magellan, 1480-1521) が1521年に「発見」(discover) したと記録された。その後スペイン人が2世紀に渡りミクロネシア諸島を植民地 (colony) にした。その間にグアムの原住民チャモロ民族の95%以上がスペイン人との戦いの中で滅ぼされた。また、第二次世界大戦の宗主国 (アメリカの影響の強いグアム対日本の影響の強いサイパン) の相違のために今日でも同じチャモロ民族の中での敵対意識があることを初めて知った。このようにヨーロッパ列強の利益のために一つの民族が分断された歴史は、アフリカの国々に多く見られ、今日のアフリカ諸国の内戦・紛争の原因の一つとも言われている。

研修の終了後、Mr. Carlos が椰子の実と椰子の実を割る道具を持参し、教室で椰子の実割りを実演してくれた。学生は椰子の実割りを体験し、その中のココナツジュースとココナツの果実を食べる貴重な体験ができた。

午後2時より Prof. Velma Yamashita (お父さんが元グアム大学学長) の「日本の伝統の歴史」の時間を聴講するために教室に入った。グアムの学生が「みなさんの宗教は何ですか、仏教ですか、神道ですか」と学生に質問したことを契機にお互いに質問し、時には討論にもなった。先生からは「みなさんは、茶道の経験がありますか」の質問がでた。県大の学生からもグアム大学の学生への質問がでて、学生たちの交流の場になり、貴重な経験になった。

夕方、グアム大学の EAP が計画したショッピングモールの調査 (Micronesia Mall Assignment, 資料1) を実施した。マイクロネシア・ショッピングセンターに行き、商店街の店を観察し、商品の一つ買い、その価格と産地を報告し、開店したい店を記述する調査である。学生のモールでの買い物は、プレスレット \$70 からコーラ \$80 までさまざまであった。学生が開店したい店は、化粧品店が一番多かった。他に営業したい店として、寿司屋や牛丼店など日本食レストランの提案が目についた。

8月31日(水)は、午前中の聴講の前に Ms. Bobbi とグアム大学の学生が来て、チャモロ民族のチャチャダンスを教えてくれた。水曜日の夜は、チャモロビレッジ祭りであり、そこで多くの人々がダンスを楽しむので、我々もそのダンスを練習した。Ms. Bobbi とグアム大学の学生のまねをして、3種類のダンスを覚えた。日本の盆踊りのようなものであった。10時30分からの聴講は二つのグループに分かれた。私と3人の学生は「イギリス文学」と予定表にはあったが、実際は新入生へのオリエンテーションのクラスであった。時には、このような予定と講義のミスマッチもあった。

午後1時から4時までは Dr. Kirk Johnson の社会についての研修があった。最初に、「人間は、貴重な価値のある宝石に富む鉱山であり、教育のみがその宝物を明らかにし、それから人類が恩恵を受けられることができるようにする」 ("Regard man as a mine rich in gems of inestimable value. Education can, alone, cause it to reveal its treasures, and enable to benefit therefrom.")¹ を紹介し、教育の意義と重要性について語った。次に学生に「美德」(virtue) についての質問をし、その回答を発表させた。問1は、あなたが尊敬する生存しているまたは歴史上の人物を挙げ、その人の「美德」(virtue) を述べなさい。問2は、あなたが持っている virtue について述べなさい。問3は、あなたがこれから発展させたいと思っている自分の virtue について述べなさい。学生はそれぞれの

問いに英語で答えを考え、それぞれの回答を前に出して発表した。

Dr. Kirk Johnson の後半は、文化についての話であった。文化には、有形なもの (material) と無形なもの (non-material) な面があり、主に後者の精神的な面、信念、価値観、基準、シンボルの意義について語った。社会・文化を考える時の前提として「人間の振る舞いは、その人が所属する集団によって形成される」(Human behavior is shaped by the groups to which we belong.) の言葉を紹介した。シンボルには、言語も入り、日本軍がグアムを支配した時にチャモロ語を禁止し日本語を教えた歴史的事実を語った。日本の学校では教えることのない歴史を知ることにより、日本とチャモロ民族の住むグアムを考え直す機会になった。

水曜日の夜は、全員でチャモロビレッジに行き、夜店を見て回り、チャモロ民族の工芸品などの土産店をのぞき、チャモロの夜を楽しむ。学生には、異文化交流活動として日本に関する印象を聞く、チャモロビレッジでのインタビュー調査 (Chamorro Village Survey, 資料 2) の課題がでた。最初、バーベキューパーティのような場所に集まった人々へのインタビュー調査であり、地元の人々が学生の質問に対応してくれるのか心配であった。しかし、学生の報告を読んで、心配は無用であったことを知った。質問の中に、Do you know anybody from Japan? の質問があり、ほとんどの人が Yes と答え (No は 3 名) ていた。Yes と答えた人の中には、知っている日本人が自分の「父親」、「義理の母親」であり、「妹の旦那」の人もいた。ほとんどの地元の人々 (退職した老人、タクシー運転手、学生など) は日本に対して好感を抱いていた。What do you know about Japan? の質問には、busy, earthquake もあったが、ほとんどが日本は cool, nice, wonderful, beautiful, と答えており、vegetarian (菜食主義者) と答えた人もいた。最後に、学生は次のような感想を書いていた。グアムの人々がいかに friendly であるかに驚き、日本についてよく知っていることに驚いていた。二人のタクシー運転手は "No Japan, no Guam" と答えていた。チャモロビレッジでは、生演奏に合わせて学生たちはグアムの人々と一緒にチャチャダンスを楽しんでいた。多くの学生は、グアムの学生と一緒に練習したダンスをチャモロビレッジで踊っていた。

9月1日(木)は、午前中に Dr. Ann Hattori の2度目のグアムの歴史についての研修があった。グアムのチャモロ民族にとっての戦争とは、第二次世界大戦を意味していた。それほど、その戦争はグアムの社会を左右する出来事であった。グアムとアメリカの関係は、1898年のスペイン対アメリカ戦争に遡る。1898年にアメリカはグアムを植民地支配した。その理由は、当時の蒸気船は3,000マイルごとに燃料の補給が必要であり、その基地としてマリアナ諸島のグアム島が選ばれた。その後、グアムはドイツの植民地となり、日本の植民地となった。そして、第二次世界大戦後、再びアメリカの植民地となり、グアムに海兵隊が移動してきたことが経済的且つ環境問題の面で大きな影響を与えた。アメリカ政府のグアムの人々への人種差別的な待遇は、労働賃金などさまざま面に及び、今日まで続いていると述べていた。サイパンは、ある程度の自治権のあるアメリカの自治領であるが、グアムはアメリカ連邦政府の管理下にある准州 (territory) であった。また、日本軍が支配した時、言語を日本語に強制し、敗戦寸前の日本軍は多くのチャモロ人を殺害した事実を知った。最後に質疑応答になり、「グアム社会のもっとも深刻な問題は何ですか」の質問があった。Dr. Ann Hattori は、「健康」と言った。肥満と糖尿病が深刻な問題になっていると答えた。

午後は、Prof. Juanita Castaneda の ESL の最初の授業があった。授業内容は、英語での学生の自己紹介など英語で話す機会が多くあった。Prof. Juanita Castaneda は学生に英語でニックネームを付けて、ニックネームで呼びかけていた。

9月2日(金)は、前夜からの大雨で当初の計画を変更した。グアム大学の農場に行く予定であったが、大雨のために道路の所々に水が流れ出し、ホテルから国道にでることができなくなり、グアム大学に行くことをあきらめた。レオパレスホテルの一室を借りて、グアム大学での学生アンケート調査の内容をチェックし、ユーセフィアン先生、テリー先生 (Terri Lee Nagahashi) と私を相手に学生がインタビューの予行練習をした。

午後、アガニアショッピングセンター (Agana Shopping Center) に行き、映画鑑賞を予定通りに実施した。映画は『猿の惑星・創世記 (ジェネシス)』 (*Rise of the Planet of the Ape*, 2011) で、『猿の惑星』 (*Planet of the Apes*, 1968) の続編と呼べる作品であった。しかし、時代背景や人間と猿の関係は異なっていた。前者は宇宙飛行士が猿の支配する未知の惑星 (人間の文明が崩壊した地球) に不時着し、2本足立ちした猿に人間が捕らえられ、脱出するまでのドラマであった。この映画は、人間がアルツハイマー病や痴呆症への遺伝子治療のために、猿を捕獲し、動物実験に利用している社会であった。脳細胞を再生させる動物実験を行っている間に知能が進化した猿が誕生してしまった。シーザー (高い知能を持つ猿) は、猿の実験を通して新薬を販売しようとしていたモラルの意識の低い製薬会社に復讐をし、森に帰っていった。しかし、その新薬の有毒なウィルスが実験室の研究者に感染し、次に航空パイロットに感染して、世界中に拡大し、人間が開発した新薬による人類滅亡の可能性を暗示して映画は終わった。

9月3日 (土) は、午前6時30分に中型自動車に乗り、デデトフリーマーケット (Dededo Flea Market) へ行く。朝市のような市場で、地元の人々が自分の家で収穫した野菜や果物などを所狭しと店に並べていた。珍しい果物やチマキのようなご飯を食べた。が、8時30分過ぎ頃より雨が降りだした。予定では海に行くことになっていたが、変更してグアムプレミア・アウトレット (Guam Premier Outlets) に行き、買い物と食事をした。

午後、ドライバーさんがウェスタン・リゾート・グアムのビーチに案内してくれた。雨のためにビーチの水が濁り、さまざまな魚を見られなかった。しかし、学生はグアムでの最初のビーチに喜び、泳ぎ、走り回って楽しんでた。雨が降り、早めに切り上げた。この時期は、グアムの梅雨にあたり、朝夕に雨が降ることが多かった。

9月4日 (日) は、午前9時にレオパレスを出発し、中型乗用車とカロラでグアム島一周のドライブをした。最初に観光地として最も有名な「恋人岬」を訪問した。「恋人岬」の由来は、スペイン船長の娘と心優しいチャモロの若者の恋、そしてお互いに髪を結び合って岬から身を投げたという悲愛伝説である。「恋人岬」にはグアムで結婚式を挙げた多くの日本人のカップルの名前が銅板に刻まれていた。次に、グアムと日本の歴史を学ぶために平和慰霊公苑 (South Pacific Memorial Park) を訪問した。「恋人岬」の舗装された駐車場は、観光バスや乗用車等で一杯であったが、平和慰霊公苑の未舗装の駐車場は、静寂につつまれており、訪問者はわれわれだけだった。その静寂は「グアムの観光開発と記憶の埋め立て」² を実感した瞬間であった。太平洋戦争時の日本兵玉砕の場所に建てられた「平和を祈る家」と合掌型の白い慰霊塔を訪問した。平和慰霊公苑の階段を降りて、60余名の日本兵が自決した竹藪の中の黒く焼けこげた防空壕跡の前で立ち止まり、合掌をした。

次に Hamamoto Tropical Fruit Word を訪問し、バーベキューと冷やしソー麺の昼食を食べた。グアムに来て35年以上になる浜本さんからグアムのフルーツ栽培について意外な事実を知らされた。グアムで生産した果物は海外に輸出できないし、グアム内のスーパーの果物はほとんどが輸入品ということである。農産物や果物を扱う流通体制が整っていないために、地産地消がほとんど定着していないことを嘆いていた。フルーツワールドを出る頃、気温も高くなり学生の希望で、Talofof Beach Park に寄り、次に男鹿の「鶴の崎」のような岩場の遠浅が続く Ypan Beach で泳ぎを楽しんだ。Ypan Beach の浅瀬では、小さい魚や黒いナマコを見ることができた。沖まで行くとシュノーケルで大きな魚を見ることができた。

Ⅲ. グアム大学の語学研修 2 週目

9月5日 (月) は、Labor Day の祝日のために授業はなく、グアム大学教員の Prof. Castaneda のプライベートビーチで朝9時頃より Cultural Beach Day (バーベキューパーティ) を楽しんだ。ビーチでは、椰子の実割りの実演を体験し、ココナツジュースを飲み、ココナツキャンディの作り方、

レイの首飾りの作り方を学んだ。そこへ岡山大学の学生が参加し、一緒にバレーボールやゲームをして楽しい時を過ごした。岡山大学の学生は、太平洋戦争の時、米軍の再上陸前に日本兵によって殺害されたメリッツ村のチャモロ人の記念碑を訪ね、関係者の話を聞いてきた後であった。グアムでの語学研修2年目の岡山大学の引率の先生と情報交換をした。午後には、プライベートビーチの海に入り、少し沖に行きサンゴ礁の付近を泳ぎ回る色彩豊かな魚をみることができた。

9月6日(火)は、午前8時30分に集合し、グアム大学に行く。Dr. Joo Chul Yoon の Flat Panel Display Technology についての研修があった。工学系の学生向けの液晶ディスプレイ (LCD: Liquid Crystal Display) の構造等について話をしてくれた。生物系の学生にはなじみのない話題のようで、一部の学生の反応が少なかった。11時より、Prof. Bruce Best の Solar Technology & Island Communication についての研修があった。生物系の学生向けの今日的な alternative energy system についての話であった。グアムでは renewable energy system を模索中で、solar, 水中の windmill、biomass などの実験の様子を興味深く聞くことができた。Prof. Bruce Best は、日本からのプレゼントの手ぬぐいを鉢巻にして授業をしてくれた。午後1時30分より Prof. Juanita Castaneda の ESL の授業を秋田県立大学の学生だけで受けた。基本的な場所の説明などの表現を使う練習であった。その後、農学部棟を訪問し、Dr. Golabi の土壌の研究について説明をうけた。

9月7日(水)は、午前8時30分に集合し、グアム大学に行く。9時より Prof. Juanita Castaneda の ESL の授業を岡山大学の学生と一緒に受けた。Folktale を紹介する時間であったが、秋田県立大学の学生の参加は、活発でなかった。11時より Dr. Kirk Johnson の Contemporary Social Problem の授業を聴講した。この授業は形式や内容など、日本の大学の授業形式と異なり学生は強い印象を受けたようであった。第一に、グアムの学生が、日本から学生が来ることを知らされ、われわれのためにクッキーなどの食べ物を持ち込んでいた。グアムの習慣では、お客をもてなすことは、食べ物を一緒に食べることであった。第二に、教室の外に出て、芝生の上での授業であった。第三は、一方的な講義形式ではなく、ミクロネシア諸島を扱った詩を教材にして、グループ討論をする形式であった。その詩人の詩は、グアムだけでなく、ミクロネシア諸国の問題を考えさせるものであった。大洋に散在する島々は、伝説のムー大陸が沈んで作られたものなのか、火山活動やサンゴ礁によって作られたものなのかも問いかけているようであった。

I understand that we are islands because of ocean.

I understand that the ocean has the power to separate and unite us.

I want to be an ocean! What keeps us here?

Islands in an ocean. What makes us leave?

Islands in an ocean. What calls us back?

Islands in an ocean.

"No One is an Island - Georgie" by Teresia Teaiwa

秋田県立大学の学生はグアム大学の学生の間に入り、このような詩についての討論に参加した。時々、グアムの学生に日本や秋田に関して問いかけられ、英語での対応に四苦八苦していた。この場で、私は日本の楽器・尺八を紹介する機会を与えられ、「故郷」と「アメイジング・グレイス」を演奏した。Dr. Kirk Johnson は、音楽もコミュニケーションの手段の一つであると紹介した。

午後1時20分より、Dr. Kirk Johnson の A Look at Social Problem の研修が5時までであった。最初に、学生にグアムでもっとも有意義であったことを3つあげさせた。次に、人生の問題 "For what do I live?" について考えさせた。お金や名誉のような物質主義的な目的ではなく、精神的な人生の目的・目標を得るための生き方を考えさせ、ノーベル平和賞受賞者マザーテレサ (Mother Teresa, 1910-1997) の言葉「人生の目的は、生きることであり、愛されることである。知識なくし

て人を愛することはできない」を紹介した。精神面を重視した人生の目的は、自己中心的な "I" を捨てて、他者や社会である "You" と一体化することであった。

9月8日(木)は、午前8時30分に集合し、グアム大学に行く。9時より Prof. John Crus から renewable energy と power problem についての研修があった。この間、私とユーセフィアン先生は副学長の Helen Whippy に面会に行き、副学長と考古学者でもある Dr. John A. Peterson に会い、今後の姉妹校提携の可能性について話し合い、副学長を秋田県立大学に招待した。副学長は、来日を前向きに考えるということであった。

学生は11時より午後1時30分までの間、グアム大学のキャンパス内で学生へのアンケート調査を実施した。学生は、食堂や、木立ちの下で休んでいる学生に話かけ、さまざまな情報を得ていた。学生はそれぞれに12枚の質問用紙を持って声をかけ、12名のグアム大の学生にインタビューをした学生が1名、11名にインタビューをした学生が1名、10名にインタビューをした学生が1名、9名にインタビューをした学生が2名、8名にインタビューをした学生が7名、7名にインタビューをした学生が3名であった。中には、食堂で意気投合し、30分以上も同じ学生と話している女子学生もいた。聞き取りに苦労して、アンケート用紙をグアムの学生に渡して回答を記入してもらっている学生もいた。さまざまな形で秋田県立大学の学生は、約2時間の間にグアム大学の学生とさまざまな話題について話しをしていた。それぞれの学生は、約10問の質問をグアム大学の学生に尋ねていた。その質問は主に次の3つ、グアム大学の学生の学生生活のこと、日本のこと、グアム社会に関することであった。グアム大学語学研修の体験を通じて抱いたユニークな次のような質問もあった。

After the big earthquake, we have to save electricity and set the air-conditioning to 28 °C at Akita Prefectural University. But in UOG the air-conditioning is set to high (16°C) in the classroom (and so I feel cold.) Do you think that the air-conditioning in UOG is set too High? If yes, why do you think that the air-conditioning is set so high in the classrooms?

午後1時30分より Prof. Juanita Castaneda の ESL の授業を受けた。日本の昔話 The Spider Weaver を読み、内容に関する8つの問いに答えを記入する作業であった。学生の中には、意味を取り違えて解答を記入していたが、Prof. Juanita はすべての発表に Good と行って励ましていた。

3時30分より Dr. Terry Donaldson の Biodiversity in Marine Fishes についての研修があった。Dr. Terry Donaldson は集団産卵のために1ヶ所に集合する大きな魚の習性と捕獲されやすい現実の問題について話をしてくれた。色彩豊かな熱帯の魚が見られる場所を尋ねたところ、ヒルトンホテル付近とボムホール海洋保護区付近 (Fish Eye Marine Park) と答えた。

9月9日(金)は、午前8時30分に集合し、グアム大学に行く。9時より Dr. Gary Denton の Dump and Polluted Water についての研修があった。ゴミ捨て場に雨がふり、ゴミ捨て場から浸みだした水に含まれる重金属の成分を調査し、水の汚染の研究をしていた。彼はグアムに20数年住み、水道水を飲んでいると言った。但し、滞在先のレオパレスの水道水の安全性については、水を引き込むパイプの関係などがあり、安全を保証しなかった。次の研修も図書館内の同じ教室であったが、学生たちは野外での研修を希望した。グアム大学で研修を受けていて唯一困ったことは、グアム大学内のエアコンの設定温度が16度、または17度であったことである。秋田県立大学では、3月11日の東日本大震災後に節電のためにエアコンは、7・8月には28度に設定されていた。グアムは、外は30度以上していたが大学の教室内のエアコンは16度または17度に設定されており、半袖の秋田県立大学の学生は寒さに震え、風邪気味になった学生もいた。Prof. Peggy Denny の Recycling on Guam についての研修は、野外の芝生の上で行なわれた。グアムにおける環境を守るための3R (reducing, reusing, recycling) の具体的な活動について語ってくれた。Prof. Peggy にグアムでの最も深刻な問題は何かと尋ねた。彼女は「米軍基地」を第一に挙げた、次に「環境問題」や「経済」と述べた。グ

アムにもさまざまな問題があることを知った。

昼食後、学生のグアムでの体験やグアム大学の学生へ意識調査に関する英語のプレゼンテーションを行った。最初に、ユーセフィアン先生が英語でのプレゼンテーションの極意を指導した。第一に原稿を見ずに聴衆を見て話すこと、第二に大きな声で話すこと、第三に手の動きで聴衆の注意を引きつけること、最後は Thank you. で締めくくることが。笑顔で発表を始め、明快な英語で話し、笑顔で Thank you で終わった素晴らしいプレゼンテーションもあった。学生のプレゼンテーション後、午後4時より、グアム大学主催の Closing Ceremony があり、その時に2名の学生が2週間の感想を英語で発表した。Closing Ceremony では全員が Mr. Larry から修了証書を受け取り、記念写真を撮り、飲み物やおいしい食べ物で楽しい時を過ごした。

7時より、レオパレスで学生がサヨナラパーティーを開催した。学生は、滞在中にお世話になった人々を自分たちが作ったカレーなどの料理でもてなした。グアム大学の学生が7名、Brian 夫妻、Dr. Kirk Johnson, ドライバー3名 (Ario, Angelo 夫妻)、新城さん夫妻に3人の子供、EAP の関係者5名 (Larry, Russell, Carlos, Bobbi, Jeff)、グアム大学の白髪の教員と奥さん (お茶の先生)、1月の下見に来た時に会った中年の女性 (Jennifer) が参加した。こちらの参加者を含めると40名以上の大きなパーティーであった。学生は、10時頃まで歌い、グアム大学の学生と踊りを楽しんでいた。

9月10日(土)は、午前8時30分に集合し、絶滅危惧種ココバードが見られるココスアイランド (Cocos Island Resort) に行く。メリッツ村の栈橋から10時発のボートに乗りココスアイランドに向かった。グアム大学生 (UOG) また現地人価格は、ボート往復に昼食付きで\$25であった。普通の観光客の料金は、ボートの往復が\$40で昼食は\$15であった。日本人が経営するリゾート地のココス島は、すべてがお金持ちの日本人観光客を対象に高く設定されていた。私は11名の学生と共にボートシュノーケリングにいった。料金は1名\$25であるが、3人で\$50であった。約1時間のボートシュノーケリングは、お客がそれぞれにシュノーケル、フィン、ライフジャケットをつけてボートに乗って沖に出て、サンゴ礁の付近を泳ぎ回る形式であった。お客は約40分間サンゴ礁の付近のさまざまな魚に餌を与えながら魚と泳ぎを楽しむようになっていた。参加者は、サンゴ礁の回りを泳ぐ色彩豊かな熱帯の魚を見ることができた。

9月11日(日)は、午前9時30分に集合し、グアム空港に向かい、出発時刻の約2時間前に到着した。9.11同時多発テロから10年目にあたり、グアム空港の安全チェックは非常に厳しく、数名の学生は液状のお土産は廃棄せられ、ベルトをしている者はベルトを取らせられていた。機内搭乗タイム15分前によくゲイト付近に到着した。機内に乗ってからは、順調に飛行し、予定通りに成田空港に到着した。全員が入国し、荷物を受け取った段階で解散をした。

このようにグアム大学夏期語学研修は、多少の予想外の出来事もあったが、無事2週間の研修を終え、日本に帰国することができた。

IV. 語学研修についての学生の感想と成果

9月9日の最終日に、学生に「グアム大学夏期語学研修についてのアンケート」(資料3)を実施した。「グアム語学研修は有意義でしたか?」に対しては、参加者全員(100%)が「たいへん有意義」と答えていた。「またこのような語学研修に参加したいと思いますか?」に対しては、93%が「とても参加したい」と答え、「参加したい」が1名であった。

グアム大学語学研修・授業の聴講についての感想でもっとも多かったのは、英語の聞き取りの難しさであった。EAP 研修の講師には、学生が理解できるようにゆっくり話すようお願いしたが、グアム大学の講義聴講の場合は、先生の話を理解し、グアム大学の学生の議論に参加することが大変であったようである。

この一つの原因は、秋田県立大学の学生の英語力のせいでもある。グアム大学語学研修の計画の交

渉中に、EAP (English Adventure Program) の担当者から県大の学生の英語力についての問い合わせがあった。学生の英語力は、初心者 (beginner) ではなく中級者 (intermediate) ぐらいと回答をした。しかし、『留学ジャーナル』³によると、海外での語学学校で中級者 (intermediate) は、TOEIC のスコアが500～590点であった。また、国際教養大学では、1年間の留学が義務づけられており、留学時の英語の基準は、TOEFL550点 (TOEIC700点以上) であった。今回の秋田県立大学のグアム語学研修の参加者で500点以上の学生は3名であった。英語での講義を理解し、議論に参加するにはある程度の英語力と積極的に発言をする態度が重要であることを再認識した。

次に、グアム大学の講義を聴講した学生が驚いたことは、日本と異なる自由な授業スタイルであった。特に Dr. Kirk Johnson の社会学の講義は、授業の前日に日本から学生が聴講にくることをアナウンスし、グアム流のお客のもてなしとしてクッキー等の食べ物を持ってくるように指示していた。この日の授業は、教室の外に出て、ミクロネシア諸島を題材にした詩の内容をグループごとに議論することであった。このグループ討論から、秋田県立大学の学生は、英語で日本の文化を語ること、秋田を語ること、自分の意見を述べることの難しさを痛感したようであった。

語学研修の他のグアムでの異文化交流体験として、多くの学生が強く印象に残ったのはプライベートビーチでの Cultural Beach Day であった。9月5日は、Labor Day の祝日のためにグアム大学教員 Prof. Castaneda のビーチに学生が招待されたのである。観光では体験できない、現地の人々との交流、椰子の実割り体験やココナツキャンディの作り方などを学び、私たちだけのビーチで泳ぐという有意義な異文化体験をすることができた。

グアム大学語学研修の影響として、学生が第一にあげていたのは、さらに英語を勉強したいと、英語学習意欲の表明である。また、実際に海外に出てさまざまな経験をすることの重要性を自覚し、「違う文化に触れることでグアムの良さ、日本の良さを知ることができた」、と書いた学生も数名いた。さらに、視野が広まった、将来のビジョンが広がった、海外で働いてみたい、誰か人のために何かをする重要性を自覚した学生がいた。

グアム大学夏期語学研修終了後、参加した学生はグアムに関する英文のエッセイ (資料4) を提出した。そのエッセイにも、グアム大学で学んだことや異文化交流の思い出を綴り、英語学習への意欲を表明していた。また、グアム社会が抱える問題、経済、環境、健康、基地問題に関心を示していた。グアム大学の学生へのアンケート調査で「グアムで大切な文化は何か」と尋ね、グアム大学の学生は "respect each other"⁴ と回答した。2名の学生が英文エッセイのなかで、「グアムの人々はお互いに尊重し合っている」と記述していた。ある学生は、「グアムでの語学研修に参加できて非常に良かった。グアムでの経験を大事にしてゆきたい」と書き、最後に "and I want to live every day." で結んでいた。学生はそれぞれにグアム大学語学研修で学んだものがあっただけであった。

注

- 1 *Book 3: Some Principles of Baha'i Education*, Ruhi Foundation, 1987, p. 9
- 2 山口 誠『グアムと日本人：戦争を埋め立てた楽園』岩波新書, 2007, 7.20, p.100
- 3 『留学ジャーナル』2011年8月号 株式会社留学ジャーナル, p.43
- 4 Anthony Sanchez, "Chamorro society rooted in respect", *Pacific Daily News*, September 3, 2011

添付資料

- 1 ショッピングモールの調査 (Micronesia Mall Assignment)
- 2 チャモロビレッジでのインタビュー調査 (Chamorro Village Survey)
- 3 「グアム大学夏期語学研修についてのアンケート」の実例
- 4 学生が書いたグアムに関する英文エッセイの実例

MICRONESIA MALL
MONDAY, August 29, 2011

JAPANESE NAME: _____ AMERICA NAME: _____

Walk around Micronesia Mall, observe all the shops, and pay particular attention to the shop that interest you and do the following:

1. Select a store in Micronesia Mall observe and describe its demographics. Include the following areas:
Exterior - _____
Interior - _____
Merchandise - _____
Price - _____

2. Choose one item you (purchased or would like to buy) and give its, origin, price, and describe its use.

3. If you were to open a store at Micronesia Mall, what store would that be and why?

4. Select an existing store at Micronesia Mall, describe how you would change it?

5. Final Project: Create a marketing strategy for your store. Be prepared to present the strategy using Power-Point or other visuals of your choice.



UNIVERSITY OF GUAM
UNIBETSEDÁT GUAHAN

Professional & International Program
English Adventure Program

CHAMORRO VILLAGE SURVEY

Japanese Name: _____

English Name: _____

1. Dress appropriately
 - a. Wear name tag
2. Introduce yourself (Friendly Smile)
 - a. Name
 - b. Program (PIP - EAP)
 - c. Purpose
3. Do you have time to do a short/simple survey?
4. What is your name? What village are you from?
5. What is your occupation?
6. What do you know about Japan?
7. What do you think of Japan?
8. Do you know anybody from Japan?
9. Have you ever had Japanese food? What is your favorite Japanese food?
10. List three things to improve Chamorro Village.
11. Homework:
 - a. Write your survey response in paragraph form. Make sure you share how you feel about this experience.

グアム大学夏期語学研修についてのアンケート

本アンケートは、グアム語学研修について、その成果や効果を考察するためのものです。
 どうかご協力お願いします。 9月9日, 2011年

内容	秋田県立大学グアム大学夏期語学研修
実施日	平成23年 8月28日(日)から9月11日(日)まで
場所	グアム大学、レオパレスリゾート:アメリカ
氏名	学科 2年 氏名
評価 (○で囲む)	<p>(1) グアム語学研修は有意義でしたか?</p> <p>たいへん有意義 普通 有意義でない</p> <p>5 4 3 2 1</p> <p>(2) またこのような語学研修に参加したいと思いますか?</p> <p>とても参加したい 普通 参加したくない</p> <p>5 4 3 2 1</p>
<p>(1) グアム大学語学研修・授業の聴講の感想を書いてください。</p> <p>初めて海外へ行って、実際に海外の文化・習慣・自然・人々に触れることができたの のが1番の収穫だった。日本とは異なるものに触れることで、初めてその違いを認識するこ ができ、考える材料となった。最も印象に残った違いは、日本とアメリカの教育システム の違いで、自分の考えをどう他人に説明し、理解してもらうかを考慮する事の重要性を 感じた。</p> <p>(2) グアム島体験(語学研修を除く)で良かった点を書いてください。</p> <p>7=9先生のプライベートビーチへ行き、海辺の町の週末を楽しめたこと。 個人で来たらできない事も、大学の語学研修を通じた仲間から 体験することかいて、とてもありがたかった。</p> <p>(3) 今回のグアム語学研修は、今後の自分にどのような影響があると思われますか?</p> <p>海外へ出て実際に様々な経験をすることの重要性を感じたので今まで以上に 海外へ出る事を意識するようになると思う。また、コミュニケーションをとる上での 語学の重要な役割を経験したので、実際のコミュニケーションに生かせるような 方法で語学の勉強をしたい。</p> <p>◇今後、海外での研修について改善して欲しいことがあれば自由に書いてください。</p> <p>現地の生徒と一緒に講義を受ける機会がより多く持てるのがありがたかった。</p>	

ありがとうございました

Various Problems in Guam

Introduction

We learned about Guam for two weeks, for example about history, culture, topography, and Chamorro people. I also learned about various problems in Guam. As each teacher said, there are economic problems, army problems, health problems and environmental problems in Guam.

Body

In Prof. Anderson's class, I learned about environmental problems and ecosystem problems. I learned that water is really important for Guam and many kinds of birds have decreased or have become extinct. In Dr. Hattori's class, I learned about health problems. I learned that the government budget for health care for people is almost nothing. Furthermore, I learned about various problems not only from classes but also from my survey. I asked students about the most serious problem in Guam. Most students answered, "the economic problem", a few students answered " environmental problems such as trash and marine problems. One student answered, "It is the struggle for self-determination". I also think that the economy problem is the most serious problem in Guam. Economy in Guam is supported by the tourist industry, but I think Guam should export many kinds of fruit and create new works and become a rich island. But Mr. Hamamoto said they can't export fruit because of insects. I think it's a serious problem.

In addition I asked students about environmental problems, "What's the worst fearful environmental problem?" Most people answered global warming. This causes the sea level to rise, and decreases the beach. Finally, I asked, "Do you think Guam will develop much more in the next 10 years even though Guam has many problems?" All students answered "yes". It is said that the military base will move from Okinawa to Guam. So, I also think Guam will develop by increasing the population.

Conclusion

In conclusion, I have learned about various problems in Guam through this English language program. I have developed a new sense of value and realize that it is important to know about other countries.